

据置き型 盗聴器発見器

amex AMEX-B007

WAVE SEEKER 007

取扱説明書

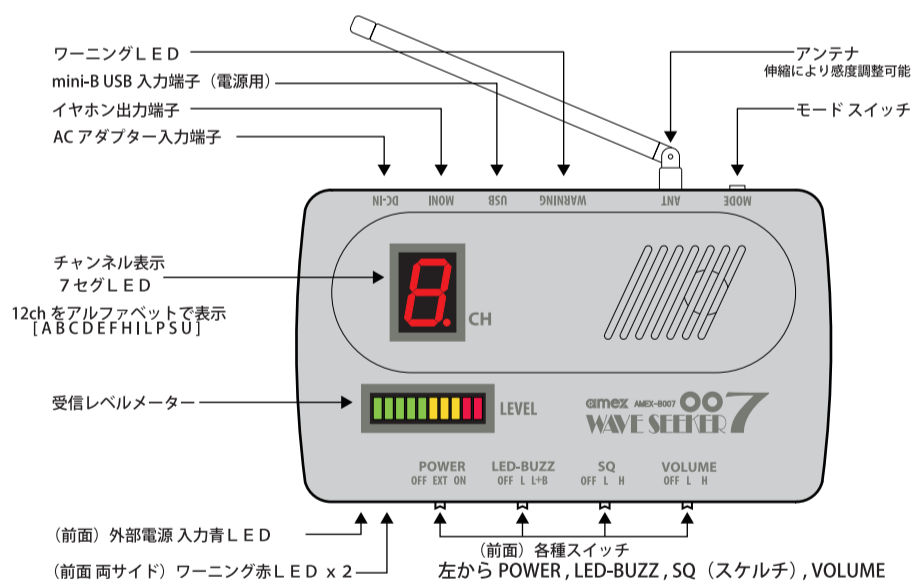
このたびは本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上で正しくお使いください。

日本製

特長

- 業界初 常時監視・設置型の盗聴器発見器です。
- 高感度・広帯域(主要 UHF 12ch)で盗聴波をキャッチします。
- 盗聴波発見時には全方向へ光と音でアラームを出してお知らせします。
- スケルチ切替えスイッチ&アンテナの伸縮にて自由に感度コントロールが可能です。
- マイコン制御により簡単操作が可能です。
- 検知エリアに盗聴器が仕掛けられると、即キャッチしてお知らせします。

本体 レイアウト



各スイッチ説明 (VOLUME 以外は、基本的に全て右側で使用します)

POWER スイッチ

- ・ OFF 電源 OFF
- ・ EXT 不使用 (使用しません。電源 ON する場合は2回右へ動かす、右位置までスライドさせて下さい)
- ・ ON 電源 ON

LED-BUZZ スイッチ

- ・ OFF ワーニング LED 点滅 OFF、オートサーチ検知時のアラーム音 OFF
- ・ L ワーニング LED 点滅 ON、オートサーチ検知時のアラーム音 OFF
- ・ L+B ワーニング LED 点滅 ON、オートサーチ検知時のアラーム音 ON

SQ スイッチ (スケルチ)

- ・ OFF 常時スピーカー ON
- ・ L 電波 (弱) 以上の電波を検知した時のみスピーカー ON
- ・ H 電波 (強) 以上の電波を検知した時のみスピーカー ON

VOLUME スイッチ

- ・ OFF 音声スピーカー OFF
- ・ L 音声スピーカー ON (音量小)
- ・ H 音声スピーカー ON (音量大)

製品仕様

電源		受信周波数
内蔵バッテリー	ニッケル水素 充電電池	チャンネル 周波数
電源入力	5V ~ 12V	A 398.605 MHz
	付属 AC アダプター / 市販 mini-B USB ケーブル / 市販カープラグ	B 399.455 MHz
		C 399.030 MHz
		D 410.250 MHz
		E 410.350 MHz
		F 410.150 MHz
		H 399.000 MHz
		I 320.720 MHz
		L 399.750 MHz
		P 406.520 MHz
		S 407.210 MHz
		U 399.605 MHz

消費電流

電源OFF (バッテリー充電時)	約 15mA
オートスキャン時	約 50mA
受信音声出力時	約 100 ~ 250mA
	バッテリーのみで約 1H 動作可能
使用可能温度	0℃ ~ +60℃

保証書

品名	WAVE SEEKER 007		amex 株式会社 青木製作所
製造番号	保証期間	お買上げ日より1年間	〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町 2917-1 Tel 027-346-3838

※製造番号は本体裏側のラベルに記載されています

お客様	お名前	様		
	ご住所			
販売店	お電話番号	-	-	
	店名・住所	Ⓜ	お買上げ日	西暦 年 月 日

無料修理規定

本製品は、当社において厳重な品質管理のもとに検査され合格したものです。万一ご購入後1年以内に製造上の不備に起因する故障が生じた場合には、当社が責任をもって無償修理致します。なお、次に記載した場合の故障については、保証期間内であっても有償修理となります。

- (1) 使用上の誤り、不当な改造や修理などによる故障及び損傷。
 - (2) ご購入後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
 - (3) 火災、地震、水害、異常電圧、指定外の電源、電圧、周波数使用及びその他の天変地異などによる故障及び損傷。
 - (4) 本保証書のご提示がない場合。
 - (5) 本保証書の所定事項が未記入、あるいは字句が書き換えられた場合。
- ※本保証書は日本国内においてのみ有効です。

ご注意

保証書の再発行は致しかねます。記載事項をご確認のうえ、本取扱説明書から切り離さず、大切に保管して下さい。保証書記載面に、販売店・お買上げ日などの所定事項が記入されていないものは、無効となります。もし、記入が無い場合は、販売店にお申し出ください。保証期間内でも、無料修理規定(1)~(5)に該当するものは、有料修理となりますのでご了承下さい。

ご使用方法

基本は前面のスイッチを全て右側へスライドさせて使用するよう設計されています。
(受信時にスピーカー音声の音量が大きすぎる場合は VOLUME「L」でご使用下さい)

- 1 最初に POWER 以外の前面スイッチを全て右へセットし、アンテナを伸ばします。
- 2 DC-IN 端子に付属 AC アダプターを接続して外部電源入力青 LED が点灯する事を確認し、電源を「ON」にします。(パソコンや充電器の mini-B USB ケーブルを接続しても電源として使用できます)
- 3 「モードスイッチ」を2秒ほど(ピピッと鳴るまで)長押しして「オートスキャンモード」に切替えます。(チャンネルが A→B→C→…と12ch 自動で順番に切替わります) ※オートスキャンモード 詳細及びマニュアルスキャンモードの説明は本ページ下に記載します。

これで設定は完了です。盗聴波を自動で探しています。

オートスキャン中に電波の強さにより受信レベルメーター LED が点灯します。
[緑 (弱い) → 赤 (強い)] 点灯数が多いほど受信した電波が強い事を示します。
※ スキャン途中で緑 (弱い) レベルで点灯する事がありますが、微弱なノイズのため無視されます。

！ 反応 (一定以上の強い電波を検知したとき) ！

- 4 一定以上の強さ (SQ スイッチ設定により2段階の感度切替え) の電波を受信した場合
 - ・ LED-BUZZ スイッチが「L」または「L+B」の時にワーニング LED が点滅します。
 - ・ LED-BUZZ スイッチが「L+B」の時に「ピピピピ…」と数秒間アラームが鳴ります。(上記ワーニング LED 点滅やアラームが鳴った場合は次の5へ進みます)

！ 判断 & 確認 (盗聴器かどうかを確認) ！

- 5 背面のモードスイッチを押して「マニュアルスキャンモード」に切替えます。モードスイッチを押して行くと、チャンネルが順番に切替わりますので、「受信レベルメーター」を確認しつつ一番電波の強いチャンネルに合わせます。また、一時的に電源ケーブルを外して本体を手に持ち、移動しながら「受信レベルメーター」を確認して電波の発信源を探事が出来ます。 ※スピーカー音声を確認し、スピーカーから聞こえてくる音声で盗聴器かどうかを確認します。
 - ➔ 室内の音声が聞こえた場合… 6へ
 - ➔ 電子音・ノイズ音・他社からの音… 本説明書裏面のチャンネル除外設定方法を参照

- 6 室内の音声が聞こえてきた場合、一時的に電源ケーブルを外して本体を手に持って移動しながら盗聴器を探事が出来ます。音声を聞きつつ怪しい場所を軽く叩いたり音を出しながら場所を特定して下さい。本体と盗聴器がかなり近くなると出る「キーン」というハウリング音も場所の特定に役立ちます。

「マニュアルスキャンモード」とは

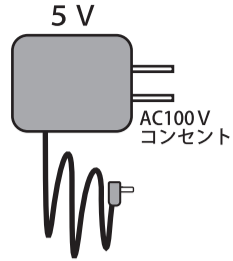
チャンネルを手動で変えるモードで、電源投入時はこのモードになっています。モードスイッチを押すたびに「A→B→C→…→S→U→A…」とチャンネルが変わります。オートスキャンモード中はモードスイッチを押す事でマニュアルスキャンモードへ復帰します。

「オートスキャンモード」とは

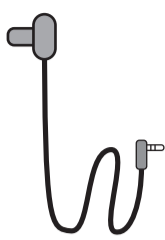
各チャンネルを自動的に変えながらスキャンするモードで、一定以上の強さの電波を見つけると自動的にそのチャンネルでスキャンを停止してワーニング&アラームでお知らせします。マニュアルスキャンモード中にモードスイッチを2秒以上(ピピッと音がするまで)長押しするとオートスキャンモードへ切り替わります。

付属品

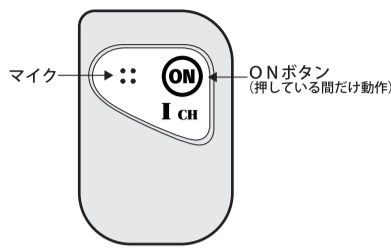
ACアダプター



イヤホン



テスト用発信機



接続電源について

基本は付属の AC アダプターを使用して下さい。
その他では下記も使用可能です。

- パソコン等に接続された mini-B USB (本体の mini-B USB 端子へ接続)
- 市販 12VΦ1.3 カープラグ 極性 センタープラス

内蔵バッテリーの充電について

基本は外部電源を繋いだまま (外部電源入力青 LED が点灯した状態) で使用して下さい。その状態であれば盗聴器をスキャン中でも充電されていきます。初回購入時またはバッテリー消耗時は外部電源を繋いでご使用のまま 1 2 時間ほどで満充電となります。盗聴器の場所特定のため内蔵バッテリー駆動で動作させる場合は、ある程度充電してから行って下さい。

テスト用 発信機

動作確認のためにテスト用発信機を付属しています。
周波数：320.720MHz (I ch) 使用電池：CR-2032 (内蔵)

ご使用方法

- 1 本体使用法の通り電源を入れた後、モードスイッチを数回押しして「I」ch にセットします。
- 2 本体の SQ スイッチを「OFF」にします。
テスト用発信機の「ON」ボタンを押し続けたままマイクに向かって声を出します。
- 3 それを受信した本体スピーカーから音声が出来ます。
前面スイッチの設定により、LED 点滅及びブザーが鳴ります。
(テスト用発信機 ⇄ 本体 間は 1m 以内の距離でテストして下さい)

本テスト用発信機は盗聴目的に使用出来ないように「ON」ボタンを押している間のみ動作します。また、発信出力も電波法内に収めるため微弱にしており、発信機⇄本体の距離は最大 1m～2m までしか届かないように設計しています。

ご注意

本機で受信サーチする 398～410MHz 帯には正規の無線で使用する周波数もあります。警察、消防、鉄道無線や TAXI 無線等の業務無線を使用している地域ではその電波を受信した本機が受信状態になる事があります。(「オートスキャン」サーチ時にその電波を受信してスキャンが停止してしまう)

なお、これら警察、消防等の無線電波はデジタル化されており、音声ではなくノイズがスピーカーから聞こえます。

その様な頻繁に不要な電波を受信するチャンネルが在る場合はチャンネル除外機能を使用してオートスキャンのチャンネルリストから除外する事ができます。

※ただし、除外したチャンネルは盗聴器が仕掛けられても受信できなくなります。

チャンネル除外 設定方法

「オートスキャン」状態にて操作を行います。

オートスキャン中に不要電波を受信して「ピピピピ…」と鳴っている間に 10 秒ほどモードスイッチを押し続けて下さい。「ピピピ」となり 7 セグ表示がアンダーバー「_」表示になれば設定完了です。(「_」になるまで押し続けて下さい)
その後は再度モードスイッチを長押ししてオートスキャンモードへ入ると、該当チャンネルを除いてスキャンが始まります。

除外設定は「オートスキャン」に対してのみ有効です。

チャンネル除外設定 解除方法

チャンネル除外設定を解除するには、本体電源を切った状態でモードスイッチを押し続けたまま電源を ON にして下さい。モードスイッチを離さないまま 5 秒経つと「ピピピピピ」と鳴り、全ての除外設定が解除されます。

また、室内の無線 LAN やテレビの裏側等のある程度強い電波を発信する電子機器のすぐ近くへ設置しますと「ザー」というノイズを受信する事があります。その場合は対象機器から少し離して設置して下さい。

本製品は広範囲の周波数をカバーしますが、周波数帯の違いや通信方式の違いにより発見できない盗聴器もあります。

安全についてのご注意

使用場所・使用環境

- ◇日本国内で使用して下さい。
本機の仕様は日本国内向けとなっています。海外では電波方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
- ◇人混みの中では使用しないで下さい。
アンテナが目などにあたり、けがの原因になります。
- ◇本機に水がかかる可能性のある場所で使用しないで下さい。
本機は防水処理はされておりません、水がかからないように十分注意して下さい。
水がかかった場合は直ちに本機の電源を切り、AC アダプターを抜いて下さい。
- ◇雷が鳴り始めたら本機の使用を中断して下さい。
雷鳴時に本機に触れますと感電の原因になります。

分解・改造の禁止

- ◇本体ケースは絶対に開けないで下さい。
本機は精密部品を多数搭載しています。分解や改造を加えますと故障が起き、また感電の原因にもなります。

電源・電源コードの取扱

- ◇長時間ご使用にならない時は AC アダプターをコンセントから抜いてください。
そのまま放置しますと故障の原因になります。
- ◇定格外の電圧で使用しないでください。
定格外の電圧を加えますと以上に発熱し、火災や感電などの原因になります。
- ◇外部電源に AC アダプターを使用する場合は必ず付属のアダプターをご使用下さい。
他社製アダプターを使用しますと故障の原因や異常に発熱し、火災の原因になります。
また本機同様、AC アダプターの分解や改造は避けて下さい。
- ◇電源コードを傷つけたり、傷んだ電源コードを使用しないでください。
電源コードが傷んだまま使用しますと、火災や感電の原因になります。

異常時の対応

- ◇発熱、発臭、発煙を検出した場合には直ちに使用を中止して下さい。
これらの異常を検出した場合は、直ちに本機の電源を切り AC アダプターをコンセントから抜いて使用を中止して下さい。

本製品について

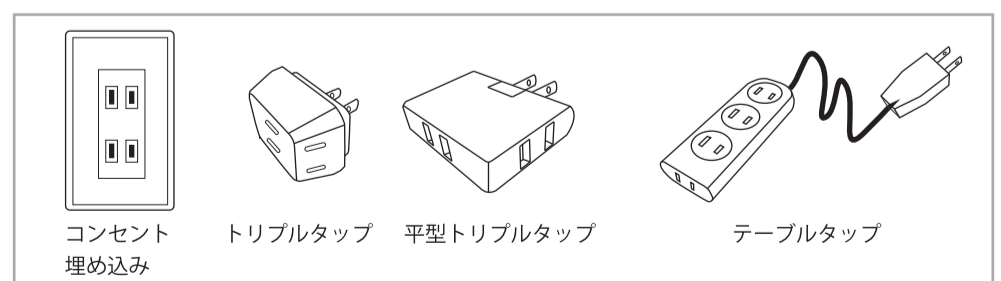
電波発信機は日本の電波法にて厳しい規定が設けられていますが、現状盗聴器自体に対する罰則はありません。多数出回る盗聴器に対して盗聴発見業者へ依頼して調査してもその後に盗聴器が仕掛けられる事も考えられます。また、パソコンや携帯電話等のデジタルデータについては情報漏えい対策が取られていますが、人間が会話しているアナログ音声の漏えいについてはほとんど対策されていないのが現状です。

本製品は盗聴器を常時いつでも監視するというコンセプトのもとに開発された商品です。盗聴器が仕掛けられると即その場でアラームや LED 点灯によりお知らせするとともに受信した音声もスピーカーから出力します。

盗聴器は受信機とセットで使用するため、ABC チャンネルに集中しています。本製品は ABC チャンネルに加えて 398MHz～410MHz 帯の良く使用されるチャンネルを広範囲にカバーします。

盗聴器について

このような所に盗聴器がよく仕掛けられています



盗聴器本体に (A) (B) (C) などのチャンネルシールが貼ってあることがあります
盗聴器は長時間動作させる必要が有るため、AC100V 電源に直接入れる事が多いです